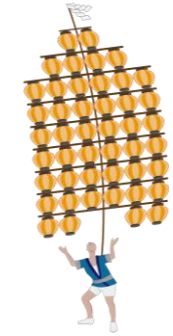
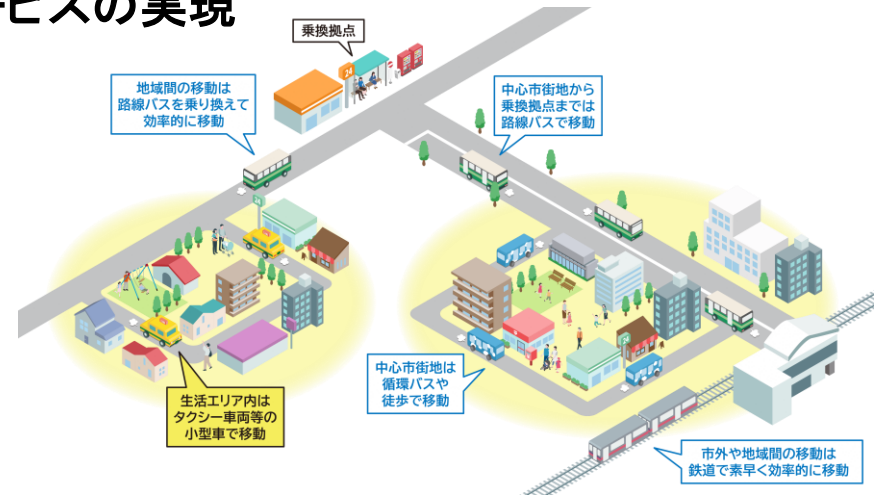
Akita city, Japan

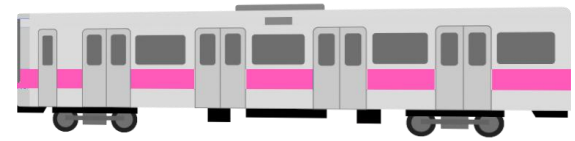


竿燈まつり

第4次公共交通政策ビジョン

多様な交通モードの連携・協働による、
将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現





都市整備部交通政策課

目次

１．ビジョン策定の背景と現状

２．ビジョンの方針と目標

３．ビジョンに基づく取組

目次

１．ビジョン策定の背景と現状

２．ビジョンの方針と目標

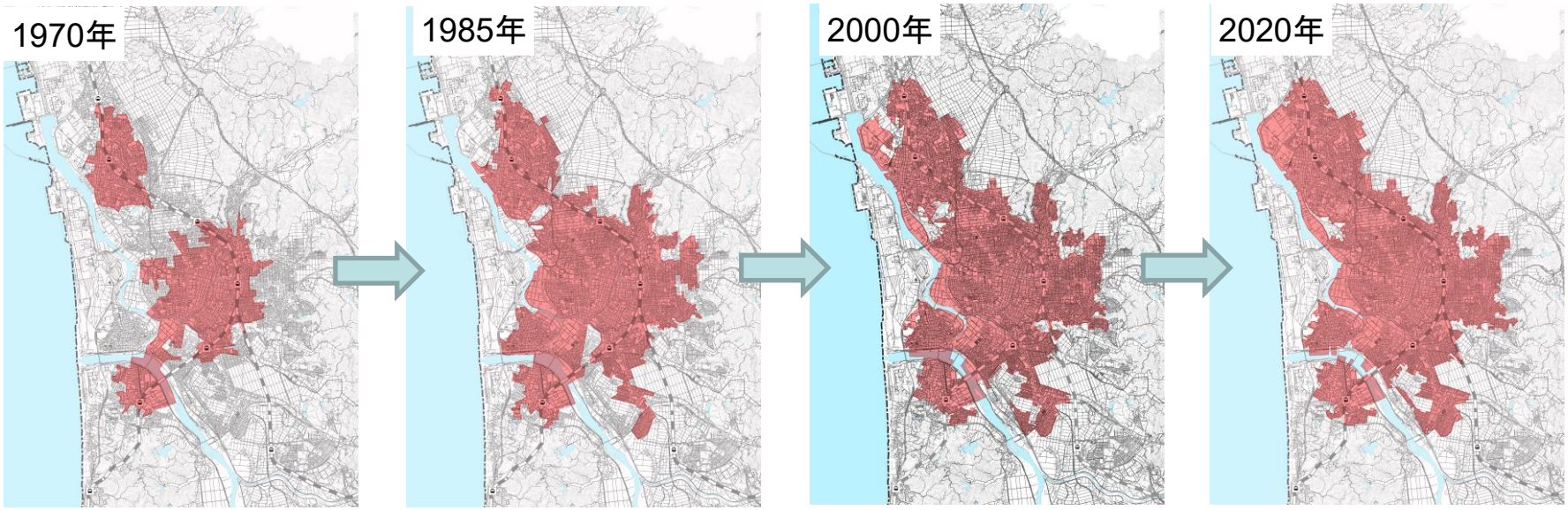
３．ビジョンに基づく取組

本市の概要

面積：906.07平方キロメートル
人口：292,587人（R7.10現在）
※R5.11に人口30万人を割っている
面積、人口の面において、北東北で最も大きい
高齢化率34.0%（R7.10現在）

８月の平均気温　最高29.2℃、最低21.6℃
１月の平均気温　最高 3.1℃、最低-2.1℃
年間降水量（平年）　1,741.6mm（月別最大197mm（７月））
最深積雪（平年）　32.0cm（２月）

市街地の拡大（DID地区※の変遷）

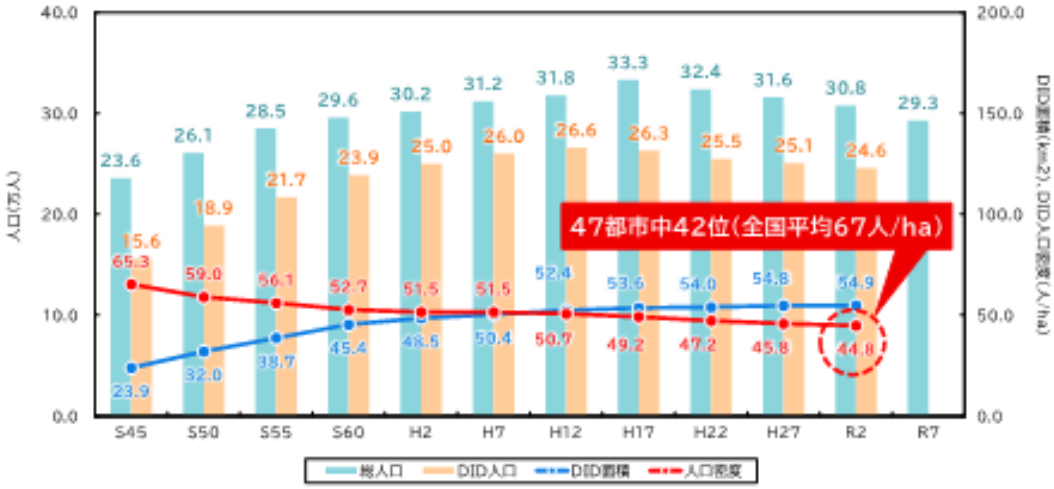


	1970年	1985年	2000年	2020年
行政区域人口	235,873	296,400	317,625	307,672
DID地区人口	156,002	239,334	265,711	245,611
DID地区面積(ha)	2,390	4,540	5,240	5,484

※DID地区（人口集中地区）：国勢調査基本単位区を基礎単位として、人口密度が4,000人/㎢以上の基本単位区が互いに隣接して、5,000人以上の人口を有する地区

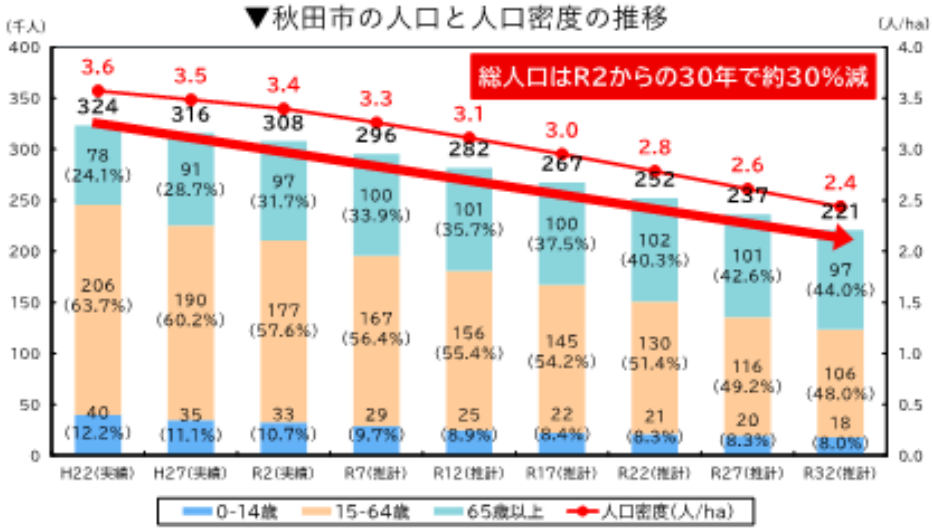
人口等の推移

▼秋田市の総人口、DID 人口と DID 面積、人口密度の推移



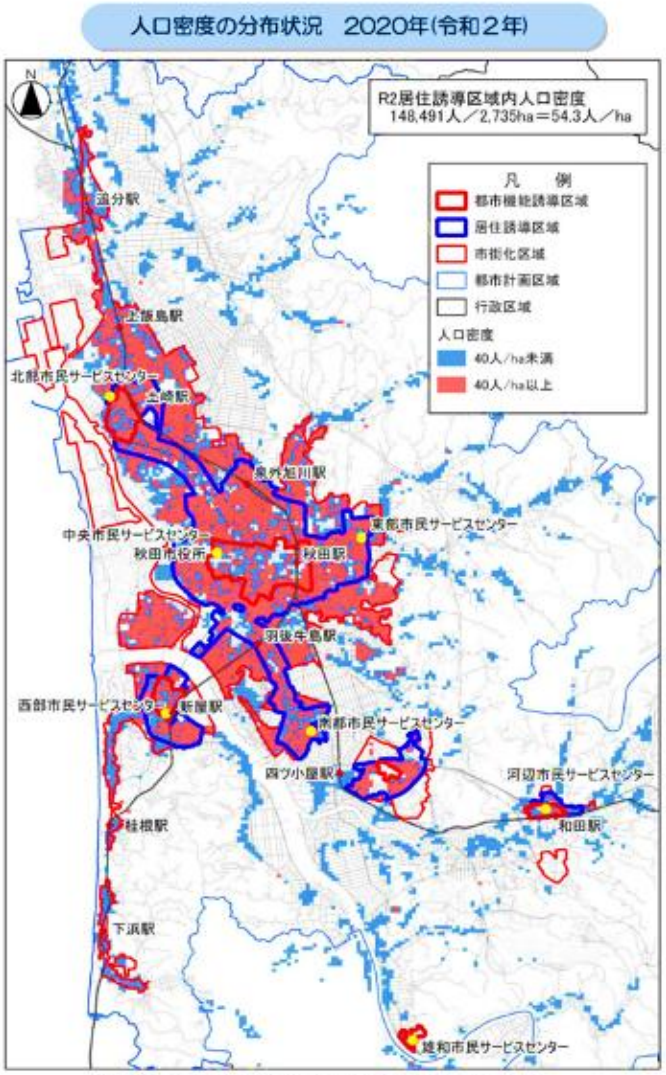
資料：[S45～R2]国勢調査・
[R7]秋田市人口世帯表

▼秋田市の人口と人口密度の推移



資料：[H22～R2] 国勢調査
[R7～R32] 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口
令和5（2023）年推計」

▼人口密度の分布状況



資料：株式会社ゼンリンマーケティングソリューションズ
2020年（令和2年）国勢調査100mメッシュ推計データより作成

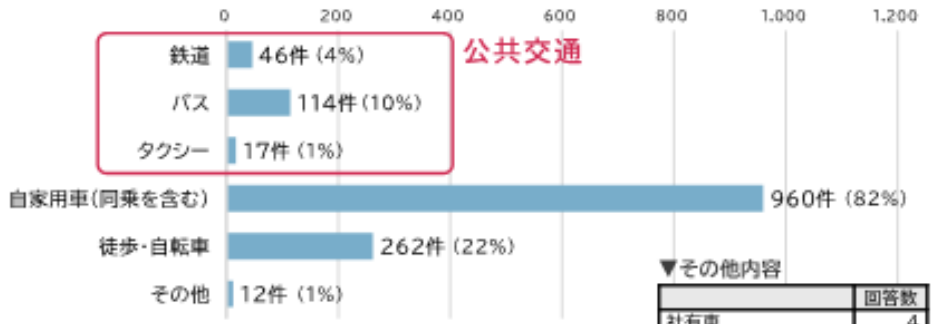
出典：秋田市立地適正化計画　中間評価報告書（全体版）

市民アンケート結果からみた交通手段

・利用交通手段は、自家用車が82％を占め、公共交通はバス10％、鉄道４％、タクシー１％とわずか
・移動目的別にみると、買い物を目的とした移動では、通勤目的の移動と比較して「徒歩・自転車」の割合がやや高くなる傾向が見られた

令和７年度市民アンケート調査より

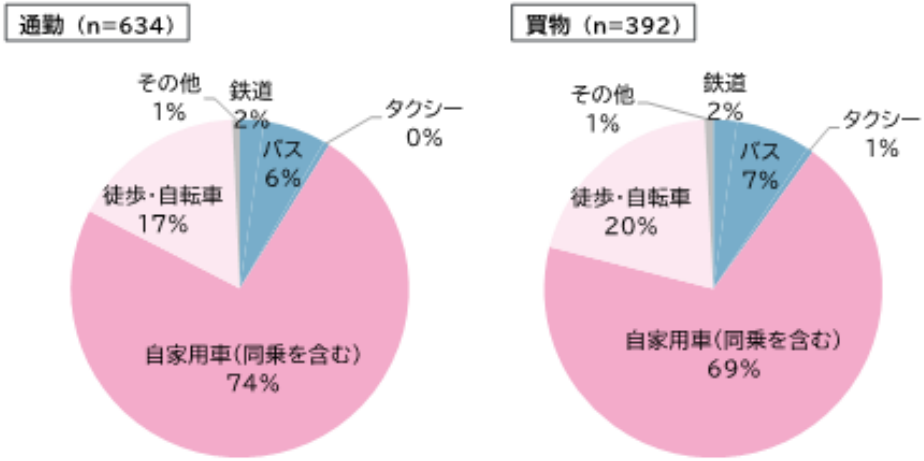
■利用交通手段　全体(n=1,175)
※複数回答



▼その他内容

	回答数
社有車	4
飛行機	2
カーシェア	2
原付バイク	1
施設の送迎・運搬車両	1
電動カート	1
娘の車	1
計	12

■移動目的別の利用交通手段

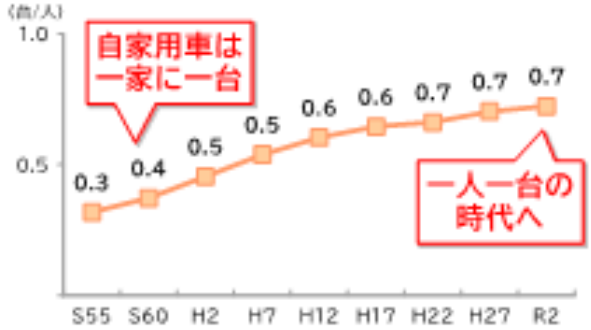


自家用車保有状況等

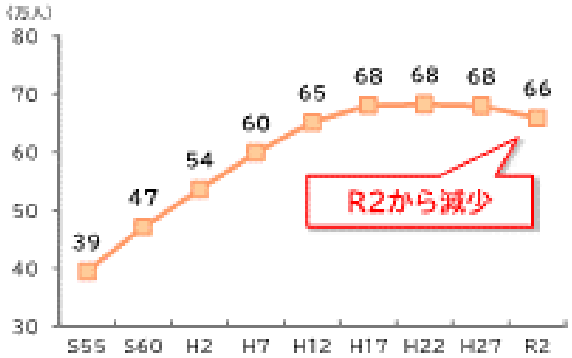
▼自動車保有台数の推移

▼一人当たり自動車保有台数の推移

（登録自動車数+軽自動車数と総人口で算出）



▼運転免許保有数の推移（秋田県の値）



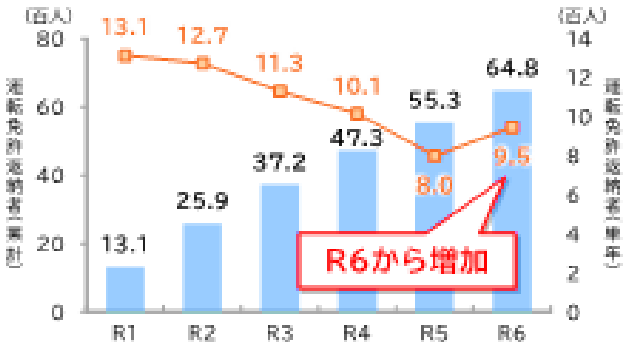
出典：国勢調査、自動車検査登録情報協会、社団法人全国軽自動車協会連合会
※端数の関係で合計が一致しないことがある

出典：交通統計（秋田県警察本部）

▼年代別運転免許保有者数（全国）

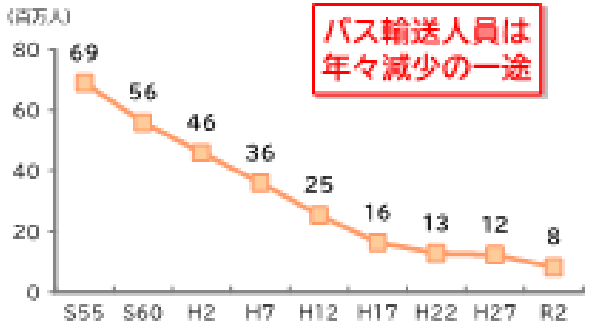
出典：交通安全白書（内閣府）

▼運転免許返納者数（秋田市の値）



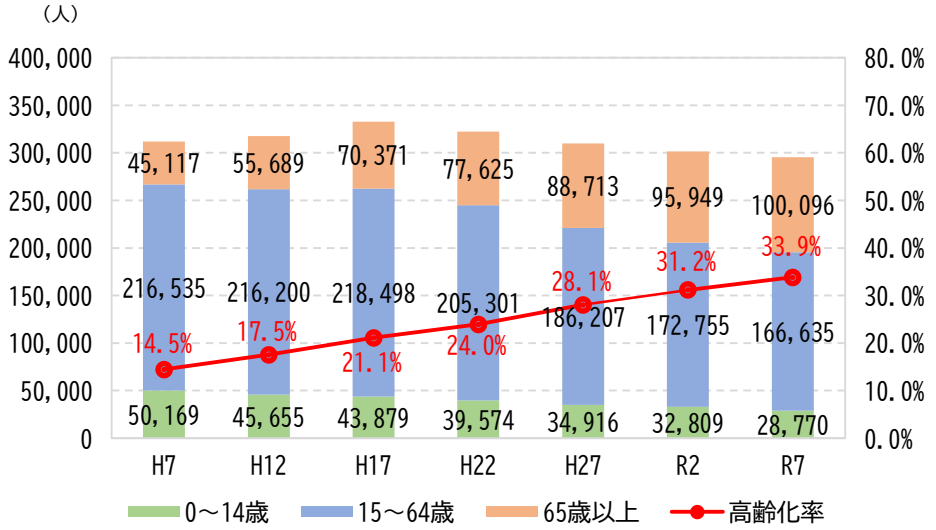
出典：秋田市　令和６年秋田市における交通事故状況

▼バス輸送人員の推移（秋田県の値）



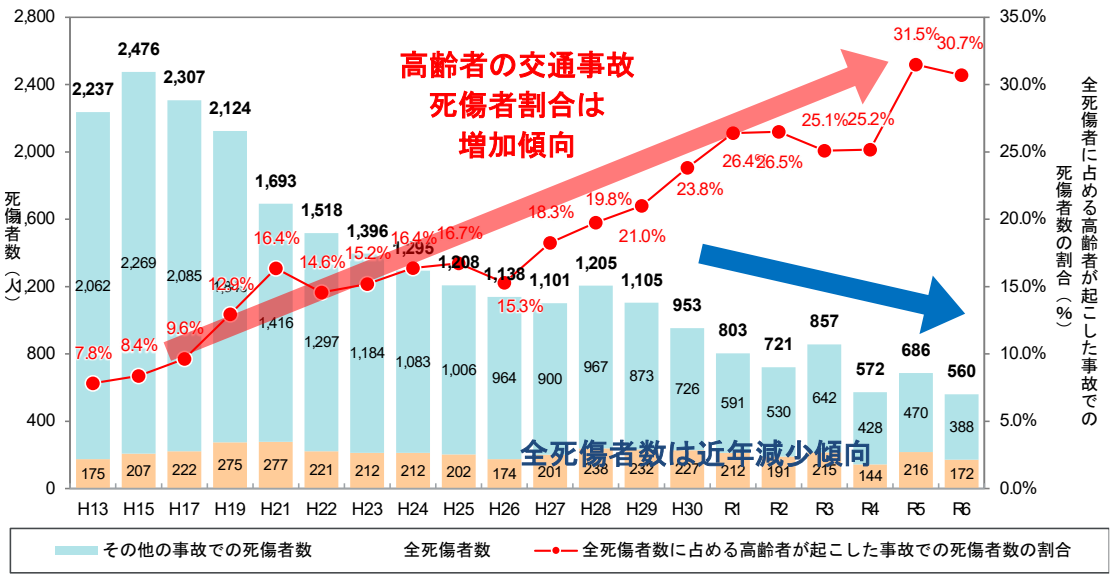
出典：自動車輸送統計調査
（国土交通省）

高齢化・人口減少の状況



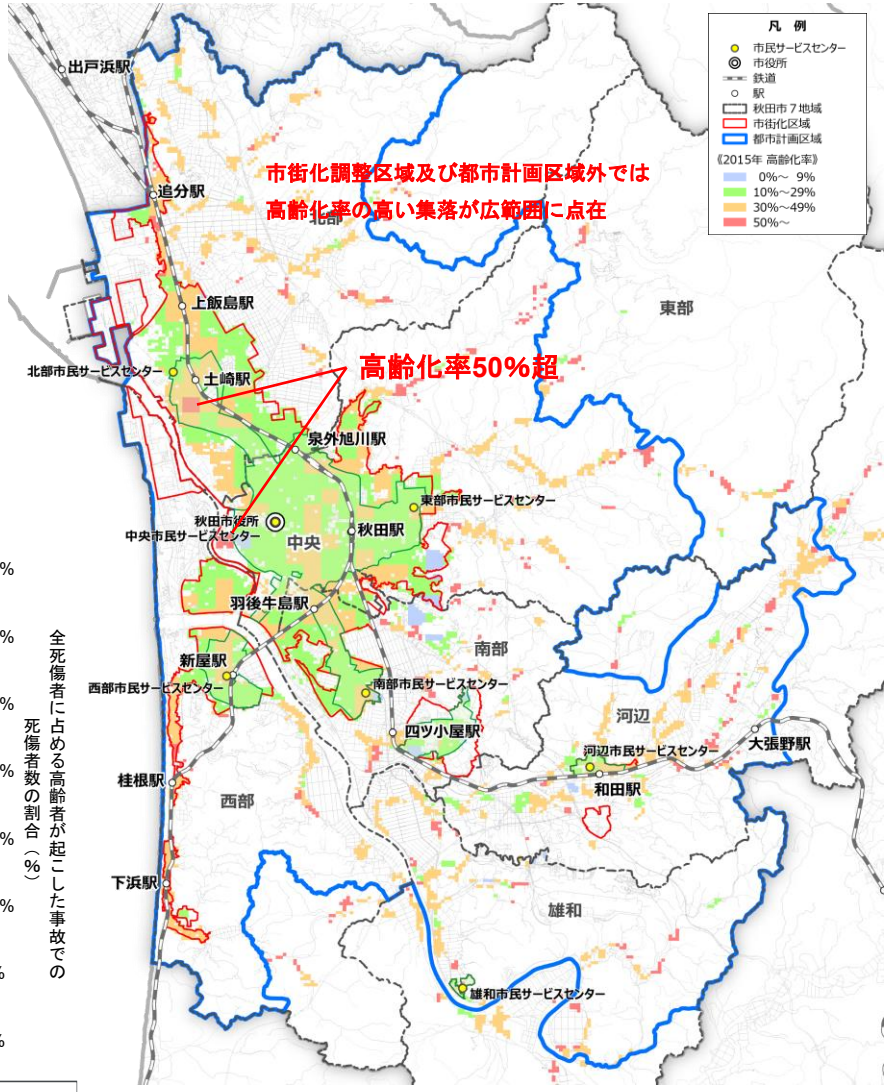
▲年齢3区分別人口および高齢化率

資料：国勢調査・秋田市人口世帯表



▲秋田市内における交通事故死傷者数の推移

資料：秋田市　令和６年　秋田市における交通事故状況



▲高齢化率の分布状況（平成27年）

資料：平成27年国勢調査100mメッシュ

本市の交通事情

鉄道：秋田新幹線（秋田-東京）、奥羽線（福島-青森）
羽越線（新潟-秋田）　　男鹿線（秋田-男鹿）
秋田駅の１日平均乗車人員数 10,049人（2024年度）

路線バス事業者：秋田中央交通株式会社（１社のみ）
年間乗車人数　5,815千人（R5.10～R6.9）

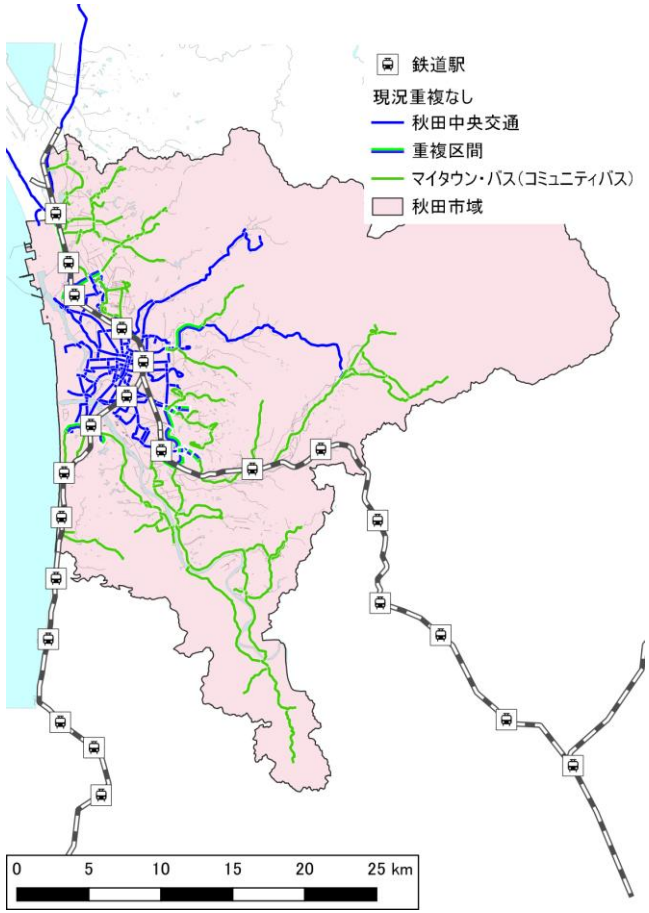
郊外部は秋田市マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行
年間利用者数　　127千人（R5.10～R6.9）

タクシー：法人タクシー12社、約350台（R7.5時点）
個人タクシー42者（R6末時点）

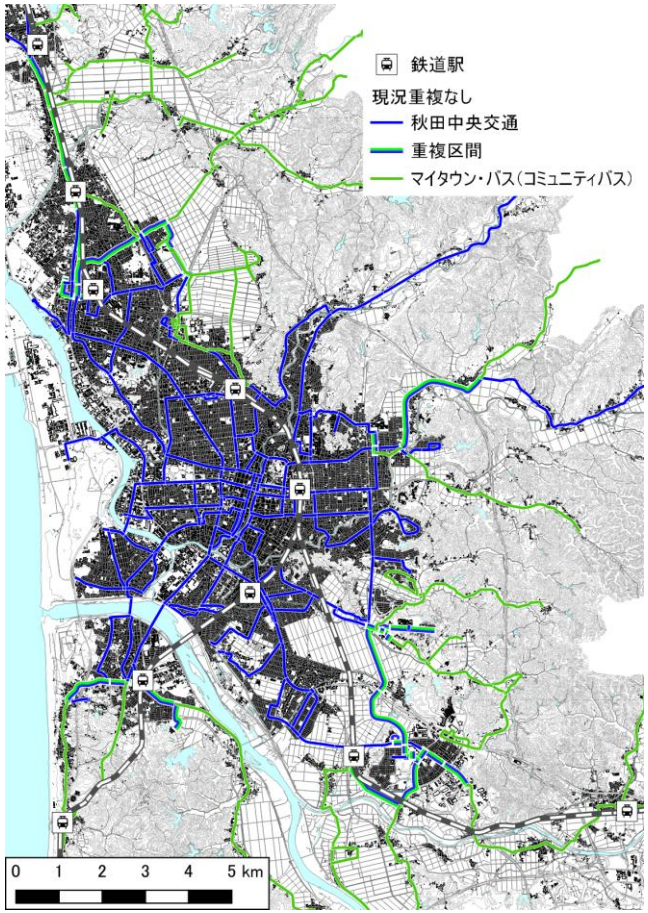
その他（広域交通）
空路：東京、大阪、札幌、名古屋
海路：新潟、苫小牧（フェリー）

本市における公共交通の状況

路線バスが秋田駅を中心に放射状に広がり、市街地を網羅的にカバー。
郊外部は行政が実質的な運行主体となり、「秋田市マイタウン・バス（コミュニティバス）」を運行している。
令和３年３月に新駅「泉外旭川駅」が開業しているが、全市的に見ると鉄道利用可能区域は広くない。

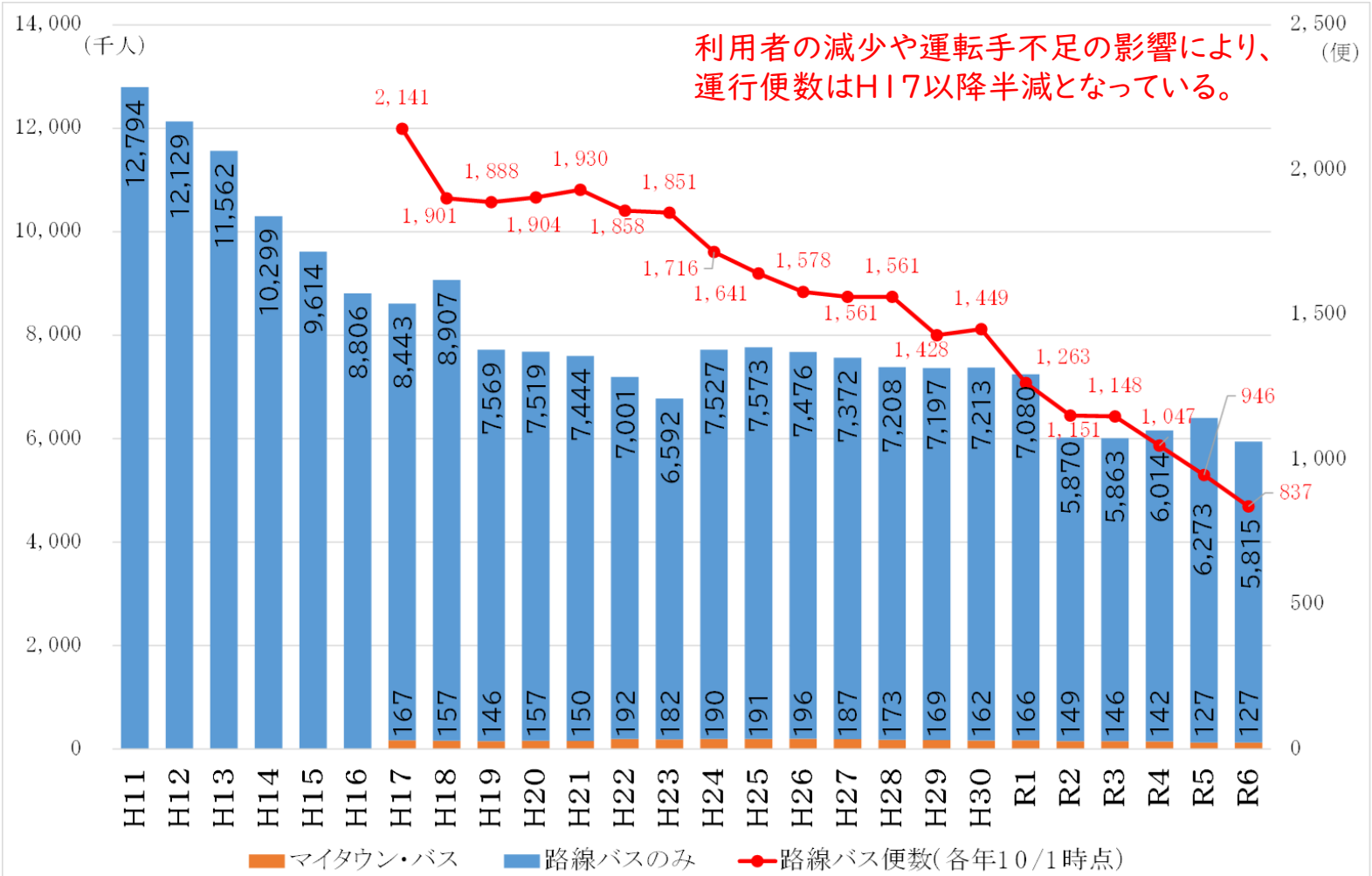


市街地部分
拡大



路線バス利用者の推移

自家用車の普及などにより減少の一途をたどっていたものの、H24から実施した「高齢者コインバス事業」の効果で、減少ペースは緩やかに。
R2には新型コロナウィルスの影響により大幅に減少。未だ回復には至らず。
近年は、減便や路線廃止の影響による利用者の減少が多いと想定される。

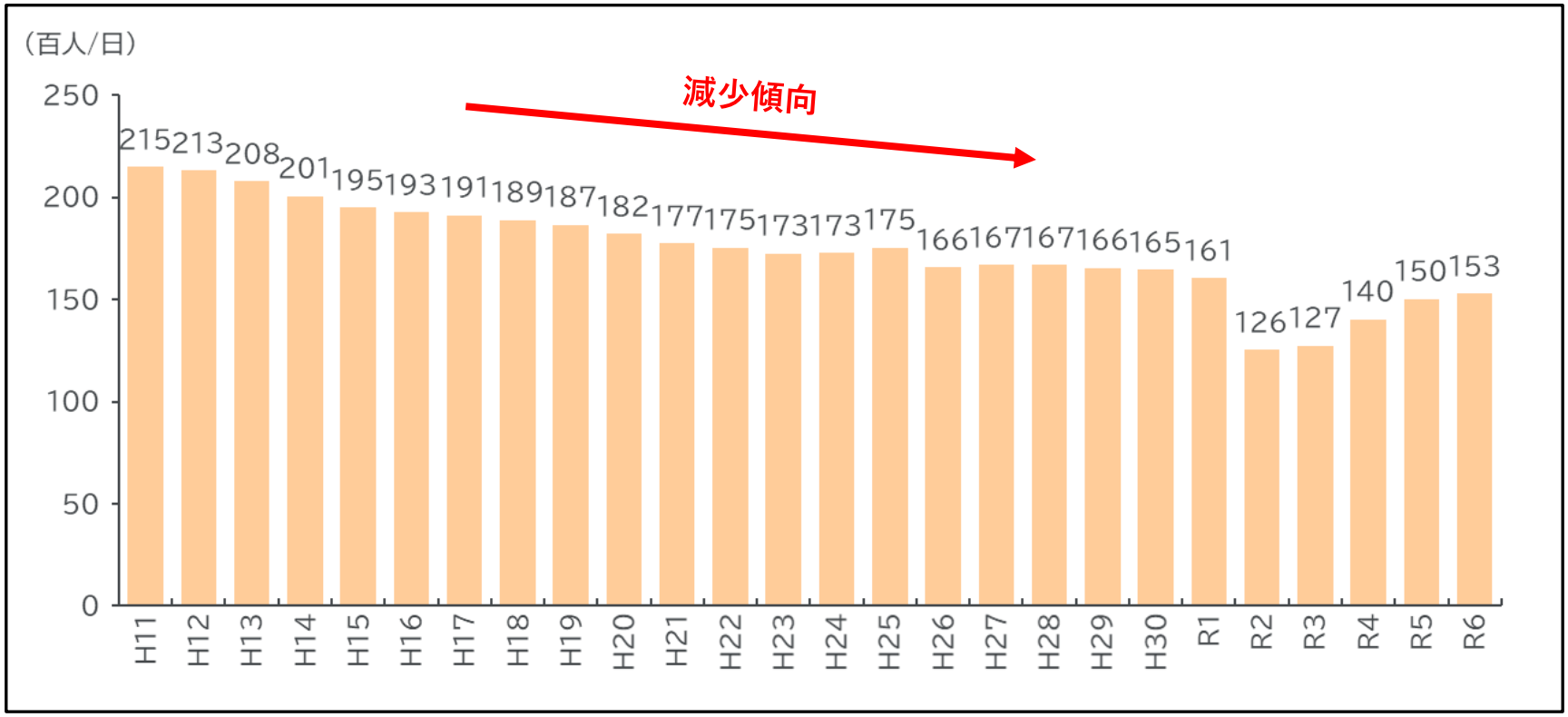


※便数については、年度により集計方法に差があるため、参考値である。

鉄道利用者の推移

路線バス同様、減少傾向で推移。
新型コロナウィルスの影響により大幅に減少した後、
回復傾向にあるがコロナ禍前までに達していない。

▼JR 駅 1 日平均乗車人員の推移（秋田市内有人駅計）

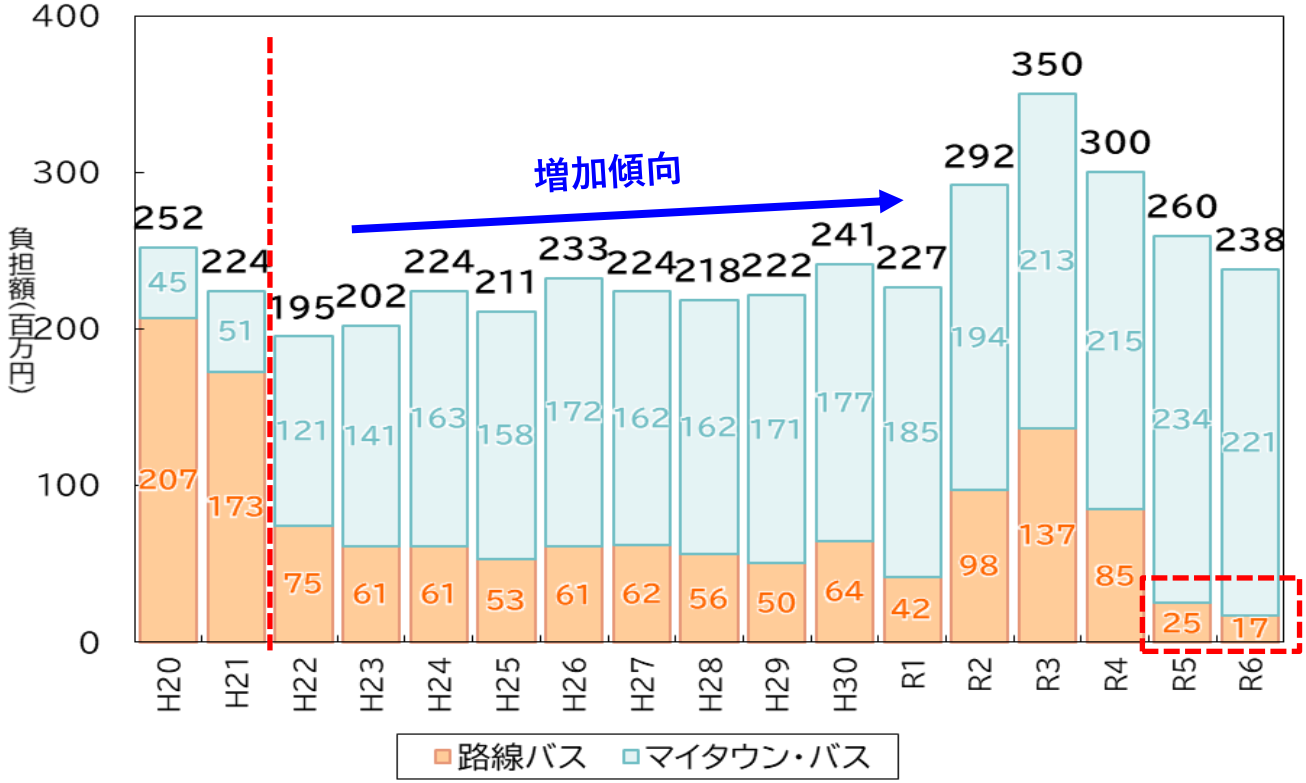


資料：東日本旅客鉄道株式会社ホームページ
※秋田市内有人駅…秋田駅、土崎駅、追分駅、羽後牛島駅、新屋駅、和田駅
※平成21年以降は無人駅の乗車人員の推計未実施

市内のバスに対する秋田市負担額

H20,21の不採算路線撤退、マイタウン・バス運行開始により、路線バスへの補助金は減少したものの、市の負担額としては横ばいから微増傾向
新型コロナウィルスの影響による収入減を補うため、補助金額が増加
R5,6については、路線廃止等により補助対象系統が減少したことに伴い減少

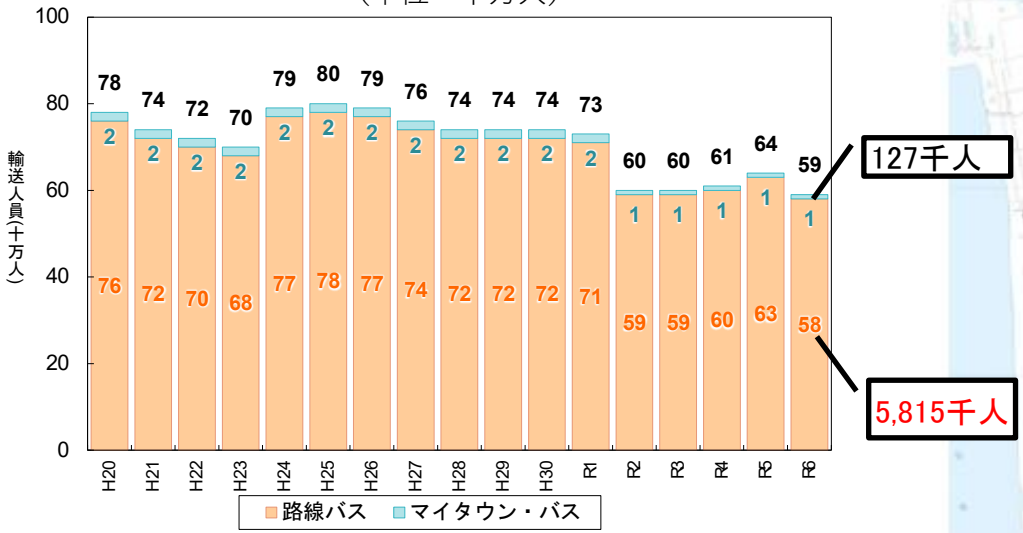
▼市内のバスに対する秋田市負担額
（単位：百万円）



秋田市内の路線バス等※1

秋田中央交通(株)が市内37路線76系統（R5.10.1現在）で運行
郊外部では秋田市マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行
その他にも、東京･仙台･能代･湯沢･由利本荘※2などを結ぶ長距離バスが運行している。

▼バス輸送人員の推移
（単位：十万人）



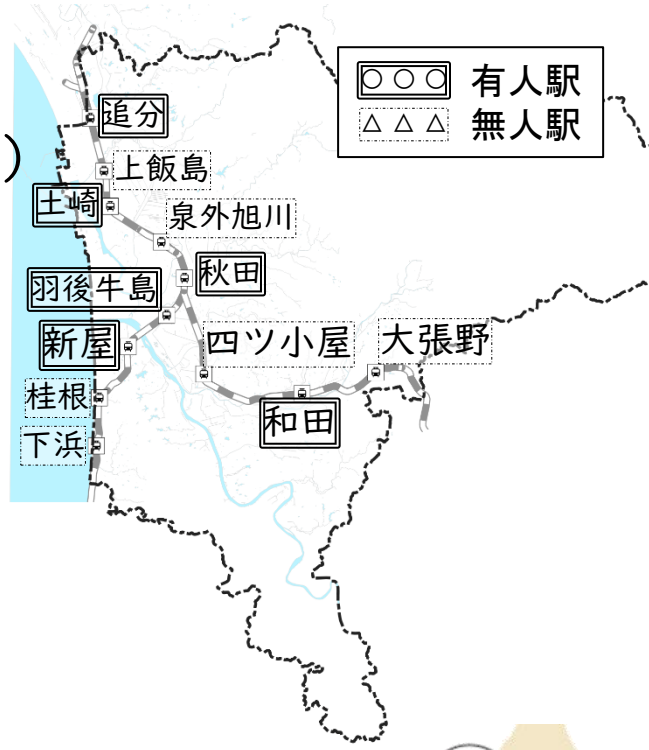
▼秋田市からの放射状ネットワーク（路線バス）

資料：秋田中央交通（株）

※1　本市では、民間バス事業者が運行する乗合バスを「路線バス」、路線バスの廃止等により、地域における移動手段を確保するため、市が主体的に運行している乗合バス（コミュニティバス）を「秋田市マイタウン・バス」として区別している。
※2　羽後交通(株)が運行

鉄道その他交通

○鉄道（秋田駅発着）
・奥羽本線（福島-青森）・羽越本線（新潟-秋田）
・男　鹿　線（秋田-男鹿）・秋田新幹線（秋田-東京）
秋田駅の１日平均乗車人員数 10,049人（2024年度）



○航空機（秋田空港発）
・東京便　　・大阪便
・名古屋便　　・札幌行便

○フェリー
・苫小牧便　　週６便
・新潟便　　週６便
・新潟経由敦賀便　週１便

○タクシー
法人タクシー　12社　約350台
個人タクシー

○空港アクセス
秋田駅発着のリムジンバスが航空便にあわせて運行。また、市内発着の乗合タクシーも運行。

秋田市マイタウン・バスの運行

郊外部における赤字不採算路線の廃止を受け、地域の移動手段を確保するため、市が事業主体となりコミュニティバスとして運行

地元の意向を把握するため、地区振興会、町内会長等の「地区代表」や、地域の「利用者代表」などで構成される「運行協議会」を地区ごとに設置

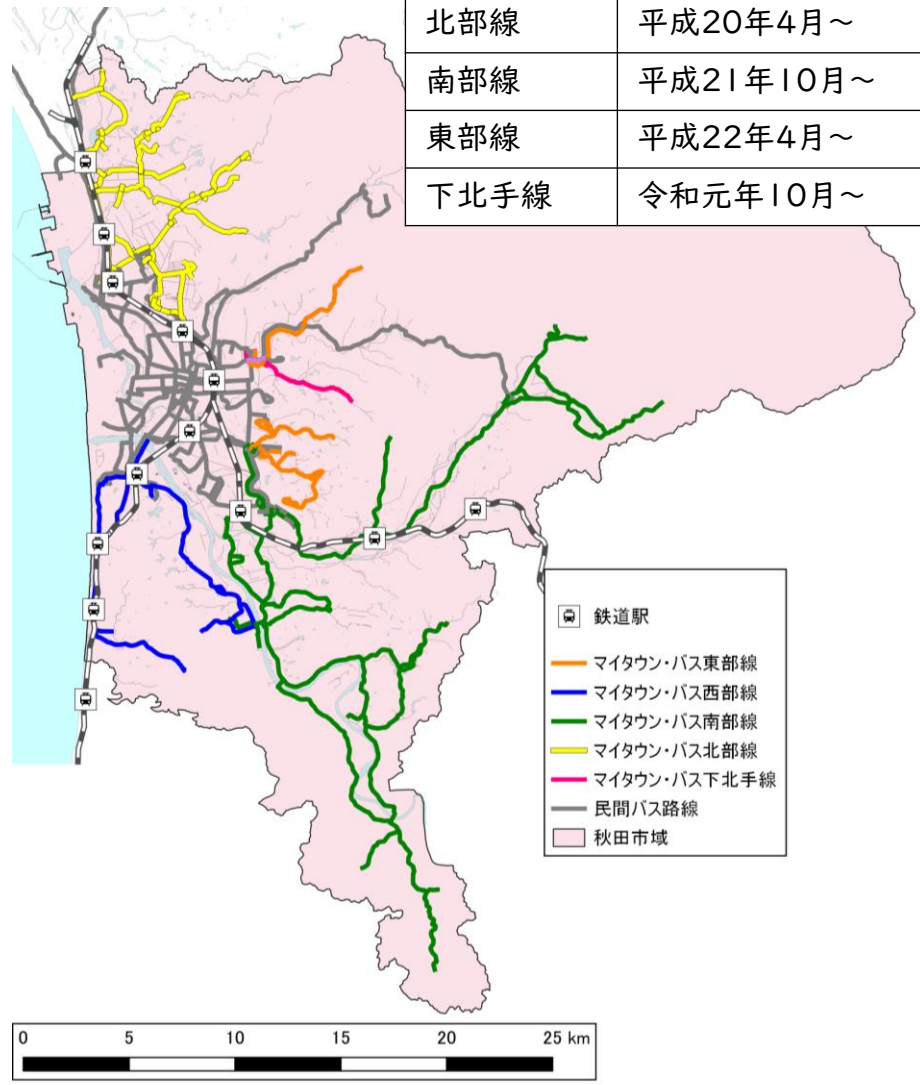
地域の意見をダイヤ改正等に反映

近年における輸送人員・費用等（4/1～3/31）

年度	輸送人員（人）	経常収益（千円）	経常費用（千円）	市負担金（千円）	前年度比
R2	142,349	25,206	224,788	199,582	107.65%
R3	145,285	25,830	241,943	216,113	108.28%
R4	132,755	26,970	251,317	224,345	103.81%
R5	126,676	36,067※	260,448	224,378	100.01%
R6	122,448	36,109	263,713	227,603	101.44%
R7	114,658	35,901	255,077	219,154	96.29%

輸送人員が減っている一方、経費は増加傾向にあり、利便性を確保しつつ効率化を図る必要がある。

路線名	運行開始時期
西部線	平成17年10月～
北部線	平成20年4月～
南部線	平成21年10月～
東部線	平成22年4月～
下北手線	令和元年10月～



※：令和５年度から高齢者コインバス事業負担金がＩＣカード実績による精算になったため、収益増となっている。

高齢者コインバス事業（福祉保健部長寿福祉課所管）

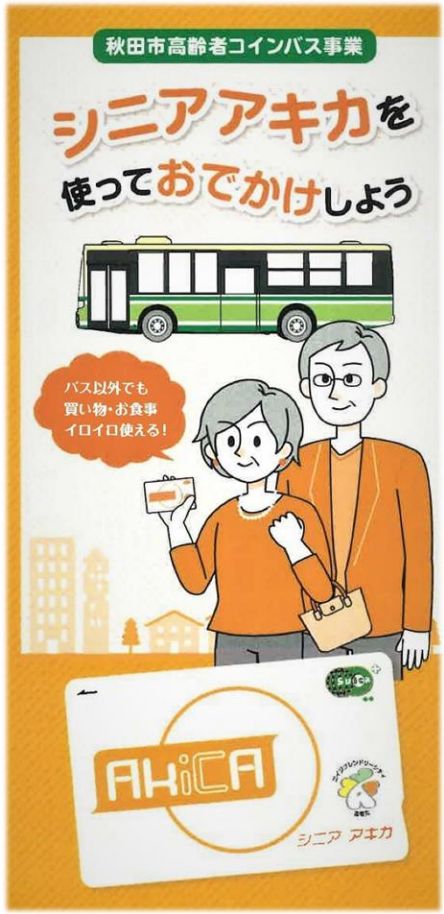
高齢者コインバス事業開始（平成23年10月1日～）

　高齢者の社会参加を促進するため、秋田中央交通（株）が発行する「シニアアキカ」を使用して、市内の路線バス、マイタウン・バスを利用する際、定額で乗車できるよう助成する事業を実施。

　平成23年10月より満70歳以上を対象として、1乗者100円でスタートし、平成25年に満68歳以上、平成29年10月からは65歳以上に引下げしている。令和8年6月利用分より、100円から150円に引き上げした。

※地域連携ICカードAkiCAについては後述

▲シニアアキカ



※高齢者コインバス事業について
https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/koreishafukushi/1005997/1004840.html

中心市街地循環バスぐるるの運行

（平成24年7月～試験運行、25年4月～本格運行）

秋田駅前等のにぎわいを中心市街地全体に波及させることを目的として運行開始

令和4年6月5日（日）の「あきた芸術劇場ミルハス」開館に合わせて、『ミルハス前』を運行経路に追加している。

＜運行概要＞

・運行時間：9:00～17:15

・本　数：1日16本（1周約35分）

・運　賃：乗車1回につき100円（小学生以下は無料）

1日乗り放題乗車券は300円

※中心市街地循環バスぐるるの運行について

https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/kotsu/1012207/1007651.html

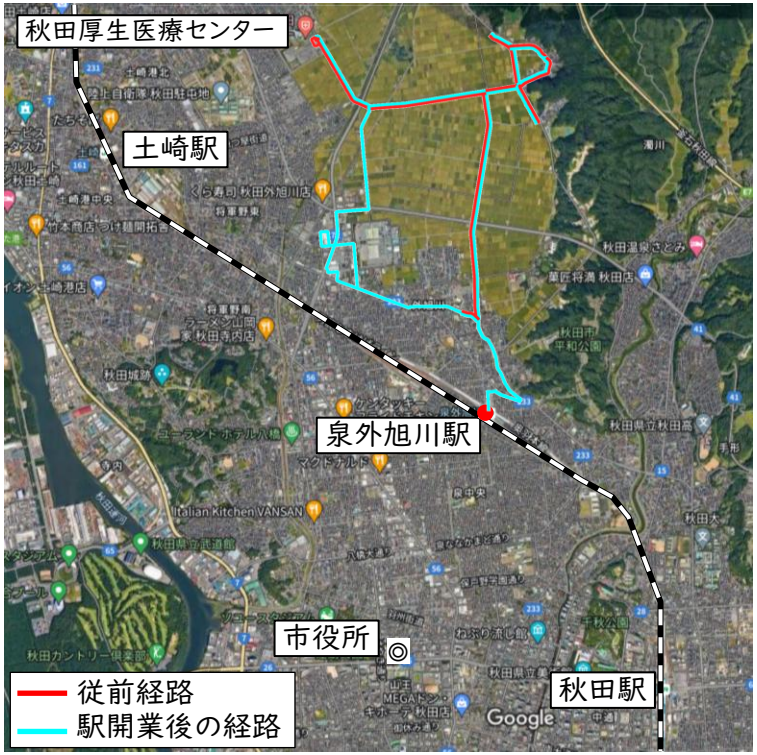
泉外旭川駅の開業と新たなマイタウン・バスの運行（R2）

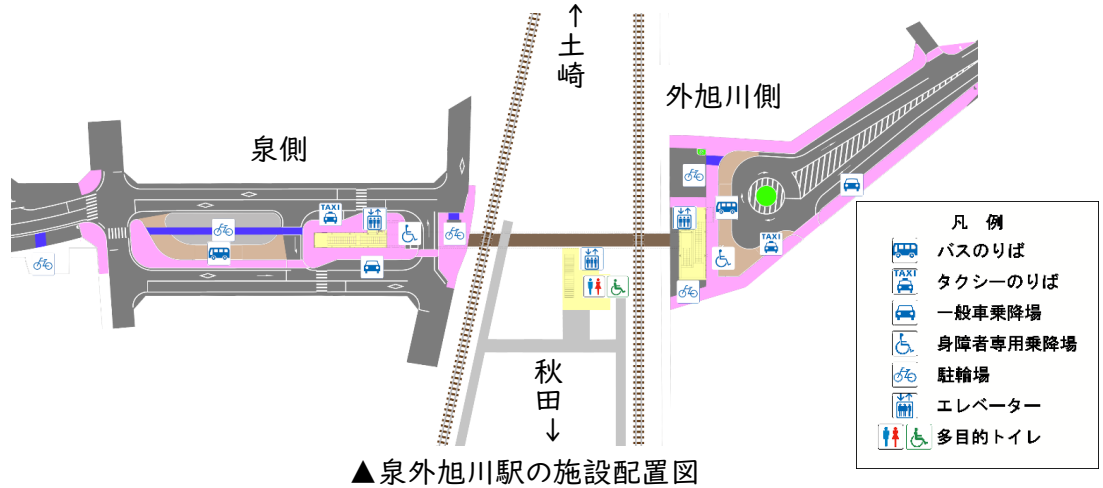
昭和60年の地元町内会連合会からの要望を皮切りに新駅設置の検討を開始。
平成30年1月、JR東日本に対して請願書を提出し、事業着手。令和3年3月開業。

駅開業に合わせ、マイタウン・バス北部線笹岡コースの運行形態・経路を変更し、外旭川笹岡循環コースとしてジャンボタクシー車両による定時定路運行を開始した。

中央交通の路線バスについては、泉側(南側)は駅開業に合わせて、外旭川側(北側)については、駅アクセス道路の拡幅完了後に乗り入れを開始した。

（新駅整備事業）・事業期間　平成29年度～令和３年度　・総事業費　19.8億円





▲泉外旭川駅の施設配置図

▲泉側駅前広場

▲外旭川側駅前広場

地域連携ICカードの導入（R3）

地域連携ICカードは、バスの定期券や運賃支払いなどの地域独自のサービスと、SuicaおよびSuicaと相互利用を行っているエリアで利用可能な乗車券や電子マネーなどのSuicaのサービスが1枚で利用可能な2in1カード

本市では、第1次ビジョン（H21.3策定）から導入に向けた検討を進め、令和4年3月から、路線バスでのサービスを開始した。令和5年5月からは市内の鉄道駅（一部を除く）でSuicaのサービスが開始された。

H30.9　ＪＲ東日本による新型Suica（地域連携ＩＣカード）が発表

・Suica機能により、全国のSuica対応交通機関、店舗等で利用可能。
　→首都圏・仙台・関西でも利用可能

・Suica機能に加えて、地域独自の機能を加えることができる。
　→バス運賃決済やバス定期券として利用可能。
　　秋田市の場合は、高齢者コインバス事業で活用。

・Suicaを導入するよりは安価に導入可能。
　→他都市の事例をもとに試算した結果

地域連携ＩＣカード	**約4.6億円**
全国相互利用可能な10カード（Suica）の導入	約5.3億円
地域独自カードの導入	約6.0億円
10カードの片利用（例：仙台Icsca）	約7.0億円

バスロケシステムの導入（R3）

本市では、昭和56年に当時の市交通局が日本初の無線式バスロケシステムを導入

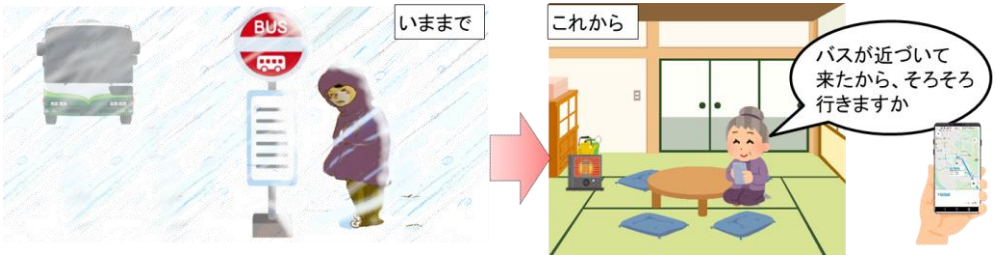
その後、設備の老朽化や交通局の廃止に伴い、システムの運用停止となっていたものの、特に冬季のバス待ち環境が大変な状況であったため、バスロケの導入を求める声が多かった

令和3年度に、オープンソースを活用した安価なバスロケ端末および運用システムを導入

GTFS-jp、GTFS-rt※1としてデータ整備することで、Google マップ等にも情報提供

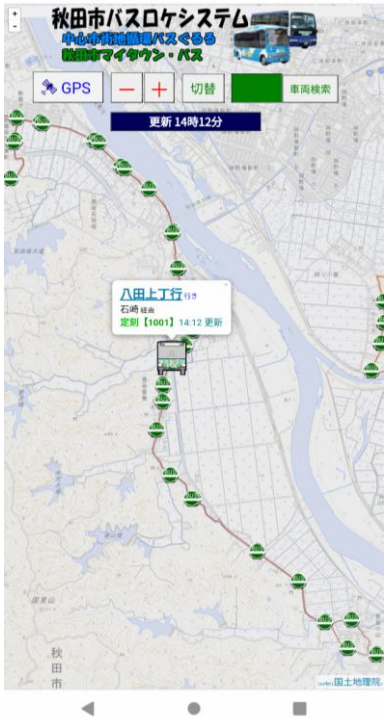
地元IT事業者と連携し市民協働の一環として端末を組み立てるなど、経費削減※2に努めた。

※１：バス情報標準フォーマット　　※２：端末１６台、事業費５９８千円



▲市民協働の取組により作成したGPS端末

▲秋田市バスロケシステムへのリンク



▲バスロケシステム画面

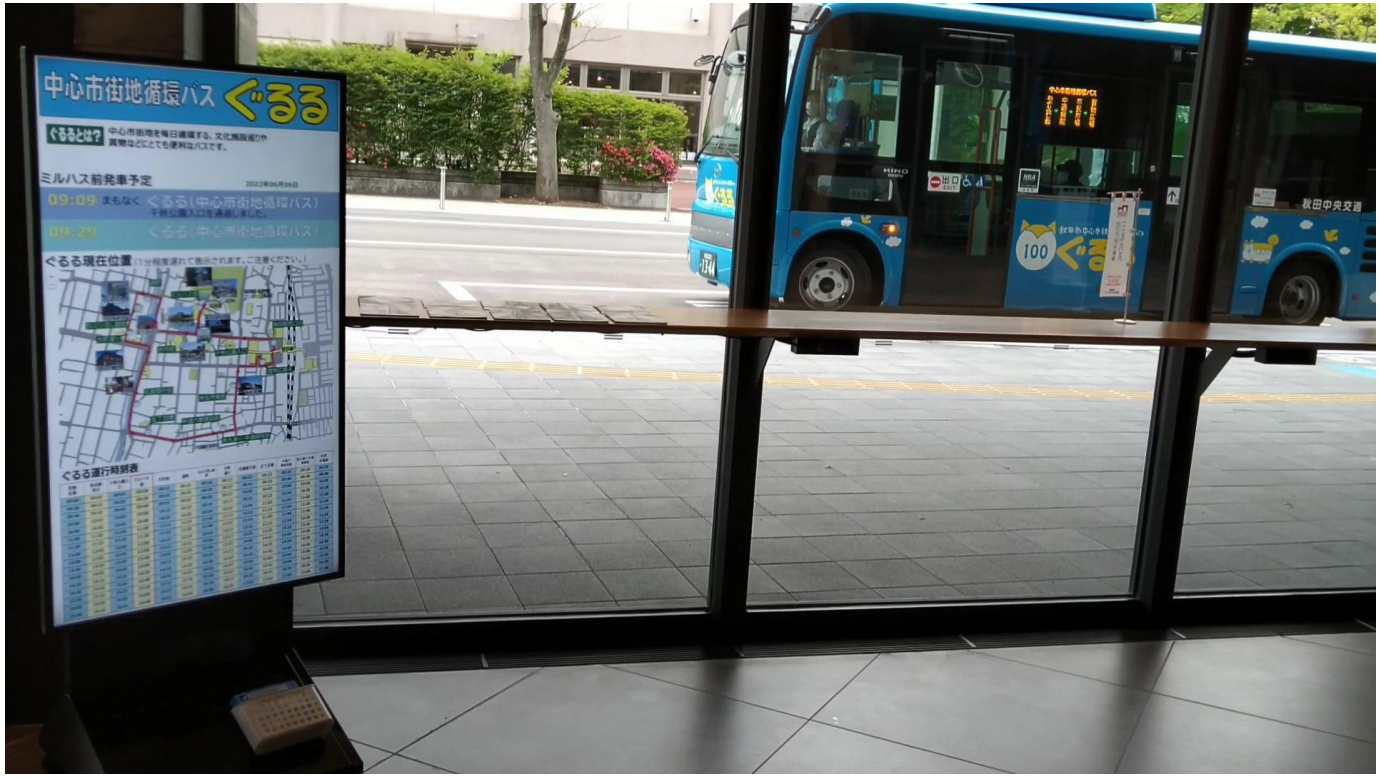
▲Google マップ画面

デジタルサイネージの設置（中心市街地循環バスぐるる、R4）

令和4年6月、秋田県と秋田市が連携して整備した新たな芸文ホール「あきた芸術劇場（愛称：ミルハス）」がオープン

オープンに合わせ、循環バスの経路を変更し、ミルハスへの乗り入れを開始。遅延状況等、運行状況をリアルタイムで提供するデジタルサイネージを設置

オープンデータを活用したデジタルサイネージとして、市が直接管理運営し、経費を抑えた運用を行っている。運用経費約446千円/年



秋田市エリア交通の運行開始（R4）

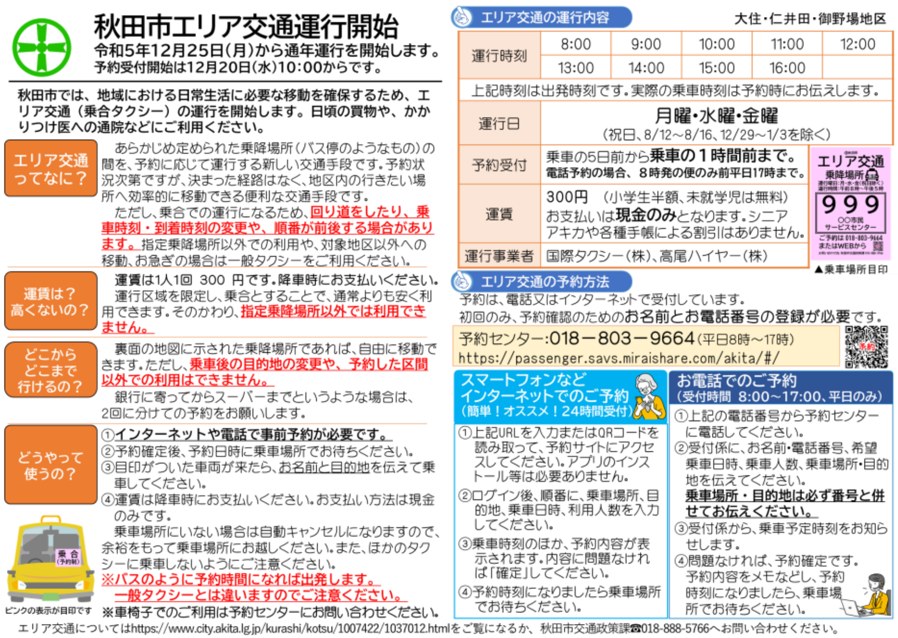
バス路線網再編に先立ち、路線バスの減便・廃止による影響などを緩和するため、地域におけるセーフティーネットとなる生活交通として「秋田市エリア交通（予約制乗合タクシー）」の運行を開始

半径２km程度の区域において、ＡＩによるマッチングを用いた乗合交通とすることで、効率的な運行を図る。

スーパーや医療機関のほか、概ね200mごとに乗降ポイントを設置

一般タクシーを活用することで、固定費を削減

複数地区・事業者での運行であるため、予約受付は地元コールセンターで一括管理



秋田市エリア交通運行開始

令和5年12月25日(月)から通年運行を開始します。
予約受付開始は12月20日(水)10:00からです。

秋田市では、地域における日常生活に必要な移動を確保するため、エリア交通（乗合タクシー）の運行を開始します。日頃の買物や、かかりつけ医への通院などにご利用ください。

エリア交通ってなに？
あらかじめ定められた乗降場所（バス停のようなもの）の間を、予約に応じて運行する新しい交通手段です。予約状況次第ですが、決まった経路はなく、地区内の行きたい場所へ効率的に移動できる便利な交通手段です。
ただし、乗合での運行になるため、**回り道をしたり、乗車時刻・到着時刻の変更や、順番が前後する場合があります。**指定乗降場所以外での利用や、対象地区以外への移動、お急ぎの場合は一般タクシーをご利用ください。

運賃は？高くないの？
運賃は1人1回 300 円です。降車時にお支払いください。
運行区域を限定し、乗合とすることで、通常よりも安く利用できます。そのかわり、**指定乗降場所以外では利用できません。**

どこからどこまで行けるの？
裏面の地図に示された乗降場所であれば、自由に移動できます。ただし、**乗車後の目的地の変更や、予約した区間以外での利用はできません。**
銀行に寄ってからスーパーまでというような場合は、2回に分けての予約をお願いします。

どうやって使うの？
①インターネットや電話で事前予約が必要です。
②予約確定後、予約日時に乗車場所でお待ちください。
③目印がついた車両が来たら、お名前と目的地を伝えて乗車してください。
④運賃は降車時にお支払いください。お支払い方法は現金のみです。
乗車場所にいない場合は自動キャンセルになりますので、余裕をもって乗車場所にお越しください。また、ほかのタクシーに乗車しないようにご注意ください。
※バスのように予約時間になれば出発します。
一般タクシーとは違いますのでご注意ください。
※車椅子でのご利用は予約センターにお問い合わせください。

ピンクの表示が目印です

エリア交通の運行内容

大住・仁井田・御野場地区

運行時刻	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00
	13:00	14:00	15:00	16:00	
上記時刻は出発時刻です。実際の乗車時刻は予約時にお伝えします。					
運行日	月曜・水曜・金曜（祝日、8/12～8/16、12/29～1/3を除く）				
予約受付	乗車の5日前から乗車の１時間前まで。電話予約の場合、８時発の便のみ前平日17時まで。				
運賃	300円（小学生半額、未就学児は無料）お支払いは現金のみとなります。シニアアキカや各種手帳による割引はありません。				
運行事業者	国際タクシー（株）、高尾ハイヤー（株）				

エリア交通 乗降場所 999 ○○市民サービスセンター ご予約は 018-803-9664 またはWEBから

▲乗車場所目印

エリア交通の予約方法

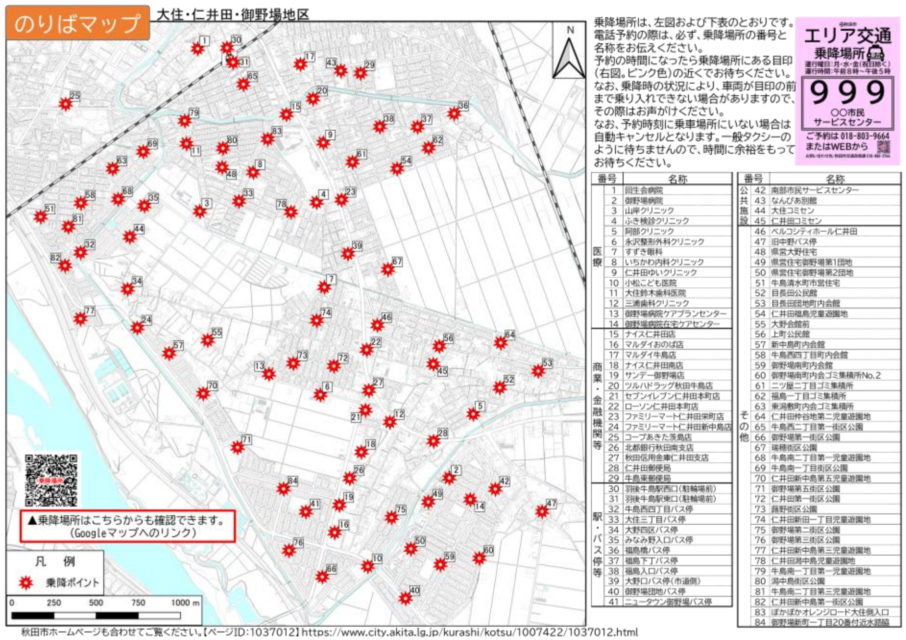
予約は、電話又はインターネットで受付しています。
初回のみ、予約確認のためのお名前とお電話番号の登録が必要です。

予約センター:018－803－9664（平日8時～17時）
https://passenger.savs.miraishare.com/akita/#/

スマートフォンなどインターネットでのご予約（簡単！オススメ！24時間受付）
①上記URLを入力またはQRコードを読み取って、予約サイトにアクセスしてください。アプリのインストール等は必要ありません。
②ログイン後、順番に、乗車場所、目的地、乗車日時、利用人数を入力してください。
③乗車時刻のほか、予約内容が表示されます。内容に問題なければ「確定」してください。
④予約時刻になりましたら乗車場所でお待ちください。

お電話でのご予約（受付時間 8:00～17:00、平日のみ）
①上記の電話番号から予約センターに電話してください。
②受付係に、お名前・電話番号、希望乗車日時、乗車人数、乗車場所・目的地を伝えてください。
乗車場所・目的地は必ず番号と併せてお伝えください。
③受付係から、乗車予定時刻をお知らせします。
④問題なければ、予約確定です。予約内容をメモなどし、予約時刻になりましたら、乗車場所でお待ちください。

エリア交通についてはhttps://www.city.akita.lg.jp/kurashi/kotsu/1007422/1037012.htmlをご覧になるか、秋田市交通政策課☎018-888-5766へお問い合わせください。



乗降場所は、左図および下表のとおりです。電話予約の際は、必ず、乗降場所の番号と名称をお伝えください。
予約の時間になったら乗降場所にある目印（右図。ピンク色）の近くでお待ちください。
なお、乗降時の状況により、車両が目印の前まで乗り入れできない場合がありますので、その際はお声がけください。
なお、予約時刻に乗車場所にいない場合は自動キャンセルとなります。一般タクシーのように待ちませんので、時間に余裕をもってお待ちください。

エリア交通 乗降場所 運行曜日：月・水・金（祝日除く） 運行時間：午前8時～午後5時 999 ○○市民サービスセンター ご予約は 018-803-9664 またはWEBから

区分	番号	名称
医療	1	回生会病院
	2	御野場病院
	3	山岸クリニック
	4	ふき検診クリニック
	5	阿部クリニック
	6	永沢整形外科クリニック
	7	すずき眼科
	8	いちかわ内科クリニック
	9	仁井田ゆいクリニック
	10	小松こども医院
	11	大住鈴木歯科医院
	12	三浦歯科クリニック
	13	御野場病院ケアプランセンター
	14	御野場病院在宅ケアセンター
商業・金融機関等	15	ナイス仁井田店
	16	マルダイおのば店
	17	マルダイ牛島店
	18	ナイス仁井田南店
	19	サンデー御野場店
	20	ツルハドラッグ秋田牛島店
	21	セブンイレブン仁井田本町店
	22	ローソン仁井田本町店
	23	ファミリーマート仁井田栄町店
	24	ファミリーマート仁井田新中島店
	25	コープあきた茨島店
	26	北都銀行秋田南支店
	27	秋田信用金庫仁井田支店
	28	仁井田郵便局
	29	牛島東郵便局
駅・バス停等	30	羽後牛島駅西口（駐輪場前）
	31	羽後牛島駅東口（駐輪場前）
	32	牛島西四丁目バス停
	33	大住三丁目バス停
	34	大野四区バス停
	35	みなみ野入口バス停
	36	福島橋バス停
	37	福島下丁バス停
	38	福島入口バス停
	39	大野口バス停（市道側）
	40	御野場団地バス停
	41	ニュータウン御野場バス停
公共施設	42	南部市民サービスセンター
	43	なんぴあ別館
	44	大住コミセン
	45	仁井田コミセン
その他	46	ベルコシティホール仁井田
	47	旧中野バス停
	48	県営大野住宅
	49	県営住宅御野場第1団地
	50	県営住宅御野場第2団地
	51	牛島清水町市営住宅
	52	目長田公民館
	53	目長田団地町内会館
	54	仁井田福島児童遊園地
	55	大野会館前
	56	上町公民館
	57	新中島町内会館
	58	牛島西四丁目町内会館
	59	御野場南町内会館
	60	御野場南町内会ゴミ集積所No.2
	61	二ツ屋二丁目ゴミ集積所
	62	福島一丁目ゴミ集積所
	63	東潟敷町内会ゴミ集積所
	64	仁井田仲谷地第二児童遊園地
	65	牛島西二丁目第一街区公園
	66	御野場第一街区公園
	67	瑞穂街区公園
	68	牛島南二丁目第一児童遊園地
	69	牛島南一丁目街区公園
	70	仁井田新中島第五児童遊園地
	71	御野場第五街区公園
	72	仁井田第一街区公園
	73	諏野街区公園
	74	仁井田新田一丁目児童遊園地
	75	御野場第二街区公園
	76	御野場第三街区公園
	77	仁井田新中島第三児童遊園地
	78	仁井田潟中島児童遊園地
	79	牛島南一丁目第一児童遊園地
	80	潟中島街区公園
	81	牛島南二丁目第三児童遊園地
	82	仁井田新中島第一街区公園
	83	ぽかぽかオレンジロード大住側入口
	84	御野場新町一丁目20番付近水路脇

秋田市ホームページも合わせてご覧ください。【ページID:1037012】https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/kotsu/1007422/1037012.html

※秋田市エリア交通の運行について　https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/kotsu/1007422/1040727/1040729.html

バス来るTIMEサービス開始（R6）

路線バスの利便性向上に向けた情報提供サービスの充実のため、令和6年7月から、「バス来るTIME」サービスが中央交通(株)により始まった。

GPS等の活用により、出発状況や遅延状況などが、スマートフォン等で簡単に確認できるようになり、効率的な移動が可能になった。

本サービス導入のきっかけは、中央交通路線バスの放送設備等車内機器が老朽化し、更新に対して本市からの支援を要請されたことによるものであるが、本市から、バス運行に関する情報提供サービスの実施とオープンデータ化を支援の条件として付したものである。

「乗合バス事業者運行対策支援事業（R5.6補正予算61,630千円）」のうち、
バス運行関連システム導入支援　59,580千円、補助率2/3 （全額国交付金充当 ）

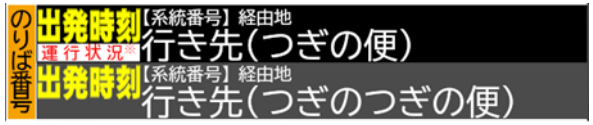
秋田駅西口バス発着案内デジタルサイネージ設置（R6）

（運用開始はR7.4～）

・路線バスの利便性向上に必要な情報提供の充実を図るため、秋田駅東西連絡自由通路（ぽぽろーど内）にデジタルサイネージを設置し、路線バスの出発時刻、乗り場などを案内

・GTFSデータを活用し、乗り場ごとに直近2便の出発時刻、行き先等を表示。リムジンバスを除く秋田駅西口発の全路線が対象（6時から21時まで稼働）

・整備費614千円（設置費の全額について、地方版図柄入りナンバープレートの寄付金活用事業助成金を活用）



▲各乗り場の表示内容

▲表示画面

▲設置状況

バス回転地整備事業（R7、牛島清水町市営住宅敷地内）

		H30	R1	R6
平日	下り	13便	9便	6便
	上り	14便	10便	6便
	計	27便	19便	12便
土日祝	下り	8便	5便	3便
	上り	10便	7便	5便
	計	18便	12便	8便

https://www.google.com/maps/d/u/0/edit?mid=1D_5-CZD3Qp4Qg2WgkkCtjeELVsft9gc&usp=sharing

目次

１．ビジョン策定の背景と現状

２．ビジョンの方針と目標

３．ビジョンに基づく取組

ビジョンの基本的な方針と目標

基本的な方針

多様な交通モードの連携・協働による、
将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現

目標1

多核集約型コンパクトシティを形成する公共交通ネットワークの実現

目標2

利用しやすい公共交通サービスの提供に向けた取組の推進

目標3

持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進

課題

・まちづくりと連動し、多核集約型コンパクトシティの形成を促進する交通環境の整備
・あらゆる世代が利用しやすい移動手段の確保
・限られた輸送資源（ヒト・モノ）を効率的に活用できる運行サービスへの見直し　等

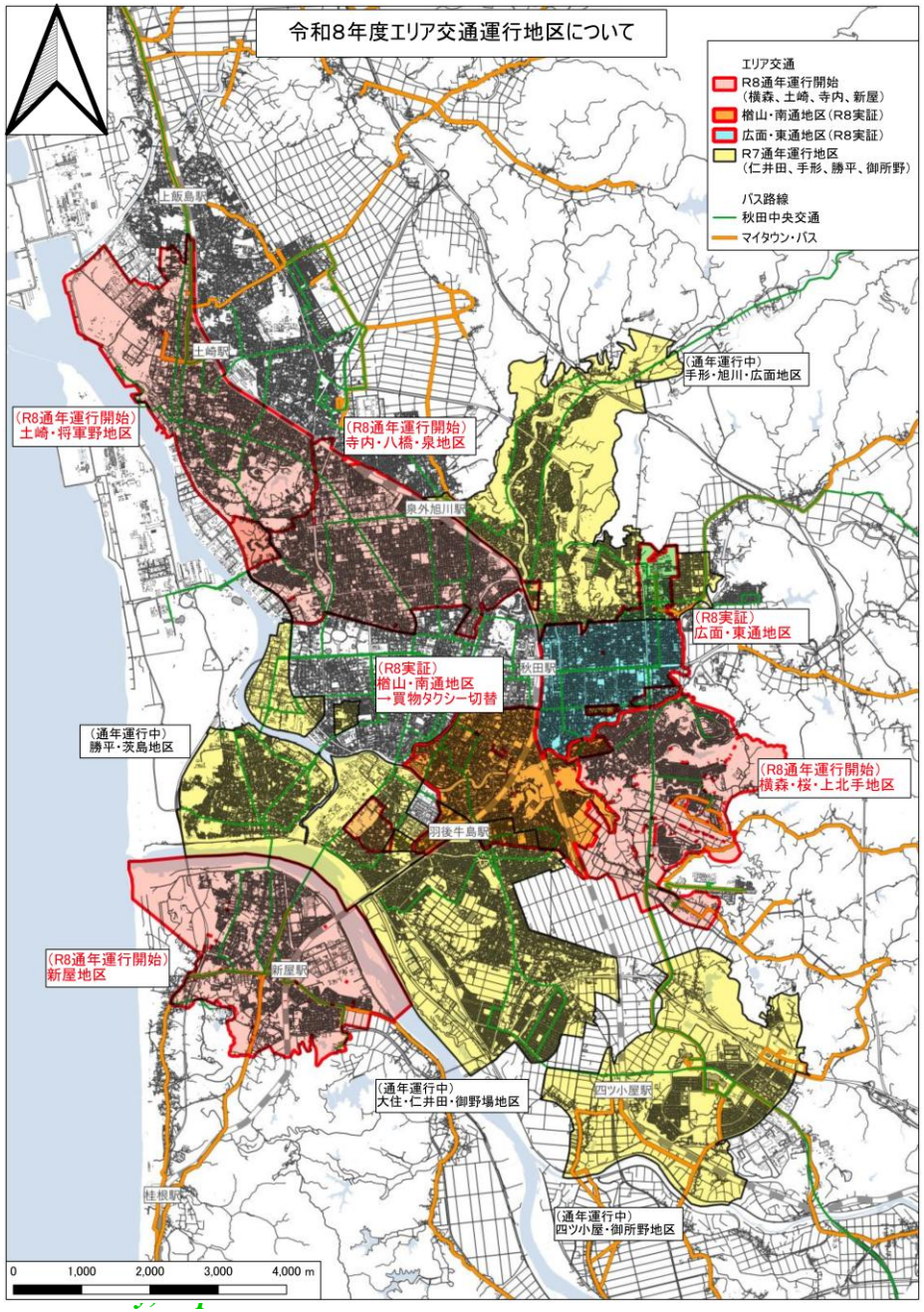
目次

１．ビジョン策定の背景と現状

２．ビジョンの方針と目標

３．ビジョンに基づく取組

目標1：エリア交通の運行範囲拡大



令和8年度の運行区域（実証含む）は次のとおり。今年度は新たに2区域での実証運行を実施する。

地区名	実証運行期間	通年運行開始時期	運行曜日
大住・仁井田・御野場地区	R5.2～3	R5.12	月水金
手形・旭川・広面地区	R6.1～3	R6.12	
勝平・茨島地区			
四ツ小屋・御所野地区			
横森・桜・上北手地区	R7.12～R8.3	R8.11(予定)	
土崎・将軍野地区			
寺内・八橋・泉地区			
新屋地区			
楢山・南通地区	R9.1～12(予定)	－	
広面・東通地区	R9.1～3(予定)		

目標２：病院へのデジタルサイネージ設置

令和8年4月に実施した「秋田市の交通に関するアンケート」の結果、**一定のニーズが確認された病院**におけるバス運行情報提供に対応するため、**市立秋田総合病院にバス出発案内サイネージを設置**し、運行情報提供の充実を図り、来院者をはじめとしたバス利用者の利便性向上に努める。

＜イメージ画像＞

目標3：交通事業者との連携協定締結（R6・R8）

目的

緊密な相互連携による取組を推進し、地域の公共交通に関する課題等に適切に対応することにより、秋田市内における公共交通の利便性の向上を図るとともに、持続可能な公共交通サービスを実現すること

	バス事業者	ハイヤー協会
締結時期	令和6年4月	令和8年7月
連携内容	(1) 再編路線網への移行に向けた取組 (2) ICカードを活用したバス運賃制度の検討 (3) バス利用環境を改善する取組 (4) 運転士不足対策の取組 (5) 安定的な運行に必要な支援の整備 (6) バスの利用促進を図る取組 (7) その他、連携すべき取組	(1) タクシー車両を活用した地域公共交通の確保・維持 (2) 公共ライドシェア等を活用した新たな生活交通の検討 (3) 乗務員不足対策の取組 (4) 安定的な運行の確保 (5) その他、連携すべき取組

目標3：公共交通利用促進講演会の実施（R7・R8）

① 令和8年1月24日開催

・市の取組・将来の方向性を紹介
・大学教員や市内交通事業者らの有識者によるパネルディスカッションを通じ、公共交通の活用方法等について意見交換
→市民の**利用促進・利用機会の創出**、公共交通を**「乗って守る」機運の醸成**を図った。

②令和9年1月16日開催予定

・有識者を講師に招き、他都市の事例や利用者の視点を踏まえながら、本市の公共交通の課題や利用促進に向けた取組について講演いただく。
・市民も交えたパネルディスカッションを行い、**公共交通を日常生活の中でどのように活用できるかをより具体的に考え**、**実際の利用につなげる**ことを目指す。

知る
公共交通の現状・役割
→
考える
日常生活での使い方
→
使う
利用促進・利用拡大

目標3：カレッジアキカ・バス利用促進事業

目的

利用者の減少が進む公共交通において、地域社会の将来を担う若年層の利用を促し、持続可能な公共交通の実現を図る。

内容

市内に住民票がある市内4年制大学の新1年生に対し、交通ポイント**2万円相当を付与した交通系ICカード「AkiCA」を配付**

＜地域連携ICカード「AkiCA」＞

令和4年3月にサービス開始となった「AkiCA」。秋田中央交通の路線バスやマイタウン・バス等での利用が可能。

目指すところ

バスを使う きっかけをつくる → 若い世代の 公共交通利用を促進 → 持続可能な 公共交通の実現へ

目標3：貨客混載AIオンデマンド

本市コミュニティバスのうち、「マイタウン・バス北部線」（予約制）が運行する北部地区においては、「利用者の減少」、「交通空白の発生」、「高齢化・集落の点在」、「運転士不足」、「買い物支援ニーズ」に関する課題を抱えていることから、**「AIオンデマンド交通」**と**「貨客混載」**を併せて実施

AIオンデマンド交通

・予約に応じてAIが配車・運行ルートを最適化

・従来の定時定路運行を見直し、区域内の乗降場所を自由に移動可能に（運行区域も拡大）

・電話予約に加え、アプリ予約を可能に

貨客混載

・運行車両の空き時間・空きスペースを活用して、旅客と貨物を輸送

・地元スーパーが既存で行っている宅配サービスの商品配送の一部を担う

これらの取組を通じて、

・移動や予約にかかる利便性向上による利用促進・拡大

・移動が困難な場合でも、生活に必要な物資の確保

・交通空白の解消

・AI配車による運行業務の効率化、車両１台あたりの輸送効率の向上

等の効果が期待される。

ご清聴ありがとうございました。

秋田市